

【KV-40】ブリーフィング資料

■ 走行全般

- 1.ホームストレート上のパイロン線はまたがないこと。
ホームストレートを通る車両とコースイン直後の車両が交錯する恐れあり。
- 2.走行中、**スロー走行をする場合はコースの右側へ車両を寄せること。**
ストップした車両はオフィシャルにより、コース外に移動させる場合がある。
- 3.各アタック中、充電池側ブレーカの復帰作業を行う際は、必ず電池の温度や固定の状態を確認し、ブレーカのカバーを開けて作業を行うこと。
- 4.**コースレイアウトを確認し、オーバーランやコース間違いに注意すること。**
- 5.各アタック中、走行不可能となった車両に対し、オフィシャルが走行距離の認定を行う。認定を受けたドライバーは、車両をコース外へ移動させ、安全な場所に退避すること。なお、**当該チームは未完走扱いとなり、以後のアタックは嘆願書提出を条件に順位・賞典対象外**の出走となる。
- 6.黄旗表示中は前方に低速車両または停止車両があるため、コース状況に細心の注意を払い走行すること。
- 7.走行終了時は各監視ポストにて赤旗+赤ライトパネルが表示される。
この時点で完走できなかったドライバーは、必ず走行距離認定を受けること。
- 8.KV-40走行枠以外の時間帯は、他のクラスの車両・競技運営車両が通行するので、接触等危険な状況を回避するため、むやみにピットレーンやシグナリングプラットホーム(ピットレーンウォール)には出ないこと。
- 9.**ドライバーをはじめ全ての参加者は、十分な水分補給をこまめに行い、熱中症予防を怠らないこと。**



図 1 ホームストレート上パイロン線

■ タイムアタック

- 1.**1stアタックのスタート順は整列順となる。**走行前の動作チェックを終えたチームより順に整列すること。コントロールタワー前のスタート位置から日章旗の合図により、フルコース1周のアタック開始となる。
なお、**2nd,3rdアタックの走行順は、その直前のアタックで上位のチームから順に走行となる。**
- 2.約15秒~20秒間隔(速やかにスタート出来るようにスタンバイ)で出走開始となる。
【最終出走】1st : 10時30分 / 2nd : 13時20分 / 3rd 15時50分
- 3.ホームストレートに戻りコントロールライン(タイム計測ライン)でチェッカーを受け、完走となる。**チェッカーを受けたドライバーは速やかに減速し、ホームストレート前方の「チェッカー後一時停止位置」で緩やかに停車**すること。
走行終了後は、公式通知No.2で規定されている通り、駆動用電源・サーキットブレーカの保管を行うため、各アタック終了後、すみやかに**PIT52**へ持ち込むこと。このとき、黒いアスファルト部分を通ること。ピットロードの白いコンクリート部分を通ると、ペナルティ対象となる可能性があるので注意すること(図2)。その際、**車両重量測定(Div1 + /DivNEXTのみ)、ドライバー体重測定(全クラス共通)を行う。**
※ピットロードは自走またはメカニックによる手押しで移動すること。
- 4.1st,2ndアタックで完走できなかったチームは、**各アタック終了後30分以内**に出走嘆願書をピットビル2階の大会事務局へ提出することにより、次のアタックに出走することが出来る。
その場合、駆動用電源・サーキットブレーカの保管は解除され充電が認められるが、**嘆願書提出以降のアタックは賞典外の出走となる。**
- 5.全アタックを完走したチームは、競技終了後に車両保管の対象となるためオフィシャルの誘導に従い、車両保管場所の**PIT1~4**に車両を預けること。
- 6.**全ての競技が終了し記録の集計を行った後、競技の暫定結果が発表される。また、最終チェッカー車両の再車両検査終了後、車両保管が解除となるので、保管場所より車両を引き取ること。**



図 2 ピットロード

競技に使用するフラッグ

【日章旗】



競技スタート合図の旗

【イエローフラッグ(黄旗)】



前方に低速車及び停止車両あり。
前方に注意して走行。

【ホワイトフラッグ(白旗)】



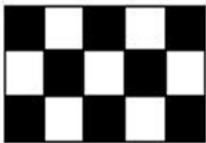
競技車両以外の走行車両あり。
前方に注意して走行。
走行距離認定のオフィシャルカー、救急車
レスキューカー等の車両が走行する場合あり。

【レッドフラッグ(赤旗)】



競技の中断。
ドライバーは直ちに速度を落とし、
必要に応じて停車できる態勢をとること。

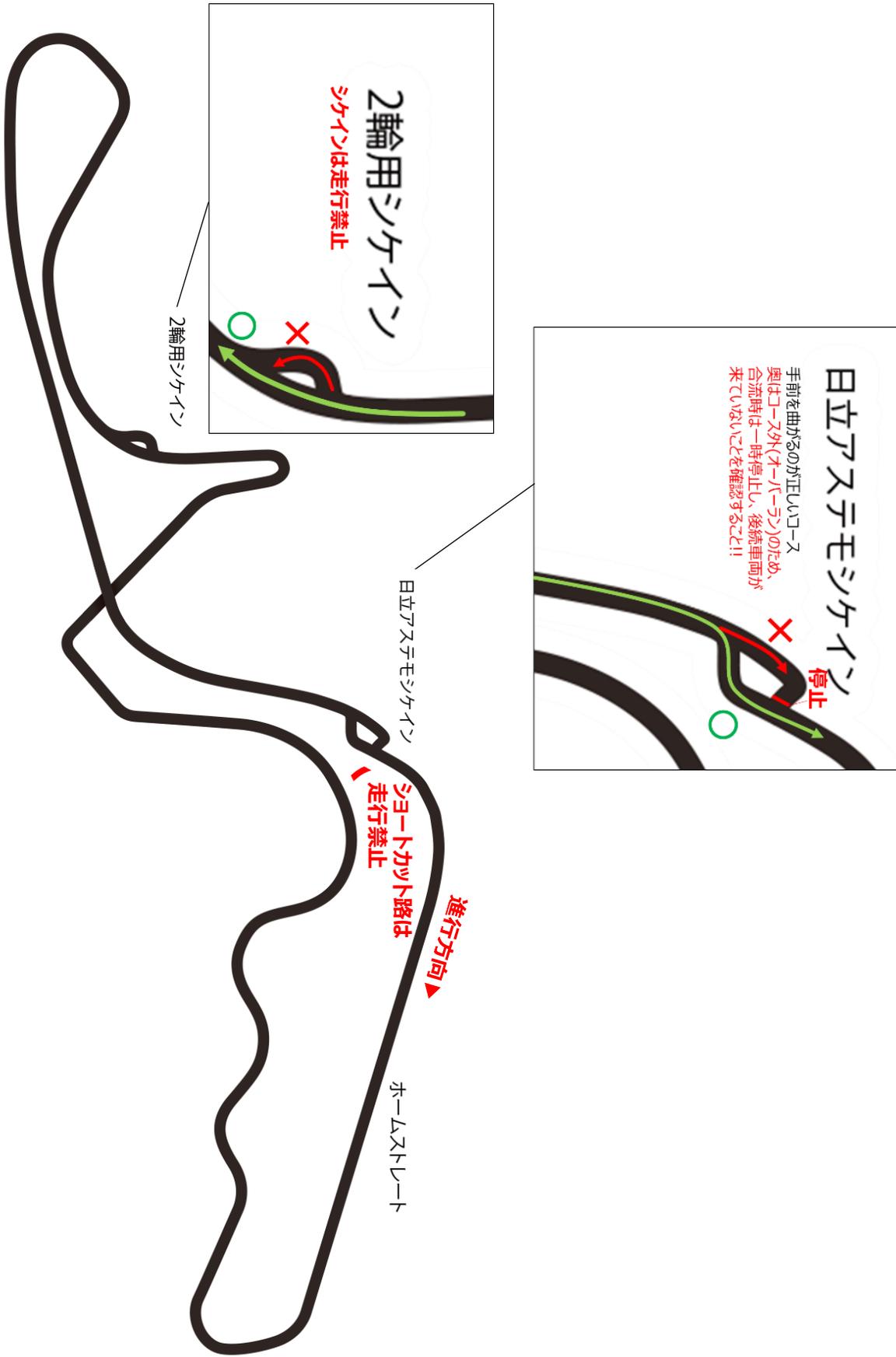
【チェッカーフラッグ】



競技終了の合図



コースレイアウト



インフォメーション No.1

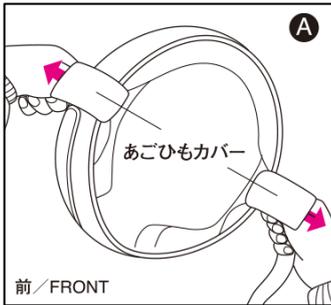
参加者 各位

安全装備(ヘルメット)の適切な着用について

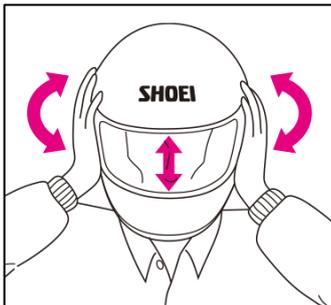
過去の大会において、横転時や転倒時にヘルメットの脱落(頭部からの抜け落ち)が発生しています。これはヘルメットが適切に着用されていなかったことに起因しており、重大な事故につながる恐れがある事例です。

下記に、ヘルメットの適切な着用方法についてご案内いたします。ドライバー・ライダーはもちろん、チームマネージャーやメカニックのチーム全員で乗員を守る意識を高め、安全第一に徹するようお願い申し上げます。

ヘルメットの正しいかぶり方と使用上の注意

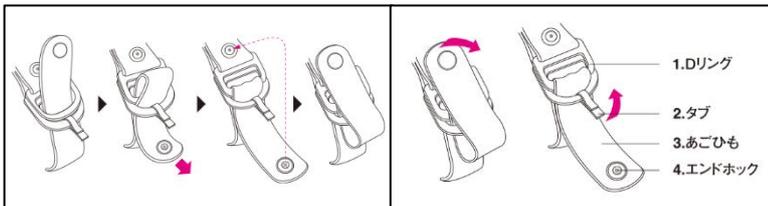


- 1.両手でヘルメットの開口部を拡げて、(図A参照)頭を滑り込ませてください。この時、あごひもカバーではなく、あごひもだけを引っ張ってください。カバーを引っ張ると破れることがあります。もしヘルメットがフィットしないならば、あなたには大きすぎます。もしあなたがヘルメットを被り慣れていなければ、さらに、きつく感じるでしょう。たとえあなたが、サイズが小さく感じられ被ることが難しいと思っても、できるだけ小さいヘルメットを選んでください。



- 2.ヘルメットが、あなたの頭にフィットしているかどうかをチェックしてください。あなたの頭頂部は、パッドの押圧を感じているかどうかをチェックしてください。チークパッドが、あなたの頬に密着しているかどうかをチェックしてください。あなたの額のまわりに、指が入るような隙間が無いことを確認してください。次に、両手をヘルメットに添えてください。あなたの頭を動かさずに、ヘルメットを上や、左右に動かそうとしてください。あなたの頭部や、顔の皮膚が、ヘルメットを動かそうとする方向へ引っ張られるはずです。もし、あなたがヘルメットを容易に動かせるとしたら、そのヘルメットは、あなたには大きすぎます。より小さいサイズを試してください。

ヘルメットのおごひもの正しい締め方



あごひもの端をDリングに通し、あごひもがあなたののどに当たるまで強く引っ張ってください。しっかりと締めた後、あごひもの端にあるエンドフックを合わせて、カチッと音がするまではめこんでください。エンドフックは、余ったあごひもがパタつかない

ようにするためのものです。

あごひもをはずす時は、エンドフックをはずしてからタブを下に引くと、あごひもがゆるみ、はずしやすくなります。

出典・画像引用元：株式会社SHOEI 公式ホームページ
<https://www.shoei.com/support/howtouse/wear.html>

出典・画像引用元：au損保 公式ホームページ
https://www.au-sonpo.co.jp/pc/lp_helmet_guide/

参考：Shoei Helmet Japan 公式Youtubeチャンネル
<https://www.youtube.com/watch?v=klChn1rdQWE>

Shoei Helmet Japan
 公式Youtubeチャンネル



あごひもは首と顔の境目に!
 (あごの先端などは不適切)
指1本以内まで確実に締める!



以上



SUZUKA CIRCUIT